

## 開会挨拶

医療安全全国共同行動 議長 高久史磨

皆さん、こんにちは。ご多忙のところたくさんお集まりいただき、ありがとうございます。

「医療安全全国共同行動—いのちをまもるパートナーズ」は、10年前の2008年に、わが国の医療界を挙げて医療安全の向上を目指すべく、日本医師会ならびに医療の質・安全学会などの団体・学会の呼びかけで始まりまして、2013年には一般社団法人に移行し、医療を担う多くの職能が互いに協力し合って医療安全を推進する場を提供してまいりました。

現在、「正会員」は62団体、「参加登録施設」は、今年度80施設の新たな加入がありまして、現在309施設を数えております。また、「医療安全レポート利用等個人登録者」も147名を数え、ご支援をいただいております。

また、昨年4月に「医療安全レポート」を創刊いたしまして、今月で第20号を発行するに至りました。これはいろいろな方々に執筆のご協力をいただいて成り立っているわけですが、参加登録団体の皆さまには、医療安全の推進に役立つ幅広い情報源として利用していただき、おかげさまで大変好評をいただいております。本日、ご参集の皆様の施設におかれましても、参加登録の上、「医療安全レポート」を活用していただきますようお願いいたします。本日の資料の中にも見本誌が入っていると思います。

また、今年度、新たな研修事業として、e-ラーニングと集合研修を組み合わせた「医療安全養成者研修会」を開始いたしました。2019年度も計画をしておりますので、多くの方に受講していただきますようお願いいたします。

本日のフォーラムでは、第1部で「医療安全の新展開：レジリエンス・エンジニアリング」をテーマに基調講演を中島先生にお願いし、第2部では、「患者の視点に立って医療安全を考える」をテーマにシンポジウムを企画しています。

依然として繰り返される医療事故、医療事故調査をめぐる昨今の動きを見ましても、わが国の医療安全は、まだ道半ばと言わざるを得ないと思います。組織として活発な活動を展開するには、まだまだ我々の努力、あるいは皆さま方のご協力が必要と思っていますので、今後より一層の力添えをお願いします。

皆さま方には、ご自身の職域、ご自身の団体での取り組みに加え、「共同行動」にご参画いただき、わが国の医療安全向上のためにご尽力いただきますようお願いしまして、私からの開会のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。